

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503593		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌平岡		
所在地	札幌市清田区平岡8条2丁目4-15		
自己評価作成日	平成22年10月6日	評価結果市町村受理日	平成22年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503593&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流に力を入れています。春の避難訓練には、町内会役員11名の参加を頂き、ご意見・ご指摘も頂き、秋の非難訓練に反映します。夏の納涼祭には、町内会・ご家族・ご入居者様・ボランティア(余興)・職員で170名ほどの参加を頂いております。秋の敬老会は、町内会よりテントを借り、設営・食事準備等町内会役員の皆様がお手伝い頂き、開催できました。また、秋の避難訓練の後、車椅子の使用法や、トロミ体験など、介護体験広場を設け、介護を体験して頂く企画もあります。昨年は、町内の子供たちを対象に介護体験広場を開催しました。確実に町内との連携・地域密着が整ってきていると思います。

もう1点、当ホームの取組として、ご家族様への満足度向上改善として、『happy birthday photo』が第1弾、『ホームでランチ』が第2弾とし、サービス向上を目指し、職員一同一丸となって、楽しいケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、主としてグループホームを全国に展開している法人が重視する人材育成によってスキルアップした職員と確立された運営システムにより、利用者にとって安心で暮らしやすい場となっています。管理者を中心とする職員同士の良好な人間関係が利用者へのケアサービスにも反映され、利用者を大事にしながら明るく親切な利用者本位のケアサービスに、家族からも感謝されています。また、ホームの大きな特色として、ホーム主催の納涼祭などの行事に、利用者や家族ばかりでなく周辺住民の方々が大勢参加して地域の一大行事となっており、年に複数回実施の避難訓練にも毎回多数参加頂くなど、地域密着に徹した姿勢が評価されています。定期的に開催している運営推進会議においても、スライドを用いた分かりやすい説明や認知症の事例発表などが好評を得ており、地域にグループホームへの理解と協力を得るための大きな原動力となっています。道内の数多いグループホームの中でも優れた模範的なホームであり、今後のさらなる成長が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で会社の理念を唱和している。日々、見える場所に運営理念を掲示し、取組んでいる。	地域との連携を含む法人全体の理念とホーム独自の理念があります。職員は日常業務等を通して理念を共有し、ケアサービスに活かすよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭・敬老会等を通して地域とのかかわりを蜜にしている。また、ボランティアをホームに招き、行事を行っている。	ホームは、地域との緊密な連携に努力しています。ホーム主催の行事には多数の住民の方々が参加し、ホーム運営にも協力を得るなど、積極的に地域との交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に介護体験広場を実施。また、運営推進会議で、認知症やGHについて話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、日常の活動を報告している。参加している町内会役員の方・ご家族の意見を聞いている。	会議は、民生委員など、各分野の参加を得て定期的に開催しています。会議では、スライドを用いて分かりやすく説明し、熱心な意見交換が行われ、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での取り組み・運営方針は、地域包括センターに都度、報告している。	ホーム運営に関する疑義は行政と相談し、管理者会議等での接触や包括支援センターに報告するなど、行政関係機関との連携に努めています。	ホーム共通の課題として、管理者が行政担当者と直接接触する機会が少ない状況にあります。外部評価や目標達成計画書など、提出の際に担当者と情報交換を行いながら、認知症ケアの実態を理解して頂くなど、積極的な連携を期待します。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議でケアについて話し合い、勉強会等で理解を深め日々仕事につとめている。	身体拘束を行わないケアの必要性を日常業務や関連の研修を通じて職員は理解し、実践しています。玄関の施錠も夜間のみで、ユニット間の施錠は無く、利用者は自由に行き来しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修や外部の講習に参加し、学んでいる。また、スタッフ会議で話し合い常に虐待について考え・話し合う体制がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修や外部での講習で学ぶ機会はあるが、これからも継続し勉強していき理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を説明し分かりやすく伝えている。納得し、安心して入居できる様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや家族会等で、意見を頂き、スタッフ会議で話し合い入居者本位のケアを心掛けている。	家族への報告は、来訪時や一人ひとりの詳細な便りで伝えています。要望や意見等は、会議などで話し合いをしています。法人宛の家族アンケートも実施しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・会社の職員アンケート・普段の会話より意見を反映している。	職員との個人面談や定例会議で意見等を聞き、職員へのアンケートも実施しています。意見等は内容によって、ホーム単独或いは全社的に協議しながら運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、職員の頑張りを表彰する制度が確立している。また、会議で話し合い働きやすい環境作りを常に考え取組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修及び外部の講習、社内研修があり、学びながら仕事をしていく環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区のGHの交流・定期的な勉強会（同区で）があり、学んでいる。外部研修にも、なるべく参加するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の要望・悩み等を聞き、その人らしい生活を考え、サービスを提供している。定期的なアセスメント・モニタリングを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや困っている事を聞きだし、安心して生活して頂ける様、工夫・改善をしている。面会時また、電話等でも家族の要望を聞き、反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人・家族が何を必要としているかを確認し、その方にあったサービスが行える様提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しみながら生活して頂ける様、職員間で常に考え、仕事をしている。大先輩という事を念頭に置き尊敬の気持ちを持ち取組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭・敬老会等皆一緒に行うという関係を築いている。家族の面会時には、本人を支える為の情報を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に家族と行ったり、命日には、お坊さんが来たりしている。また、カンファレンスでは、家族に参加頂き馴染みの物を教えて頂いている。	美容院や馴染みの場所など、利用者の希望に応じて支援し、知人が気楽に訪ねられるよう努めています。カンファレンスに家族の参加を得て、馴染みのものを把握しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせる様に、職員は、橋渡しをしたり、目を配り、日々を過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族がボランティアに来て頂いている。また、入院になり、退居された方も、近況等の報告を頂き、見舞いや、その他にも行かせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報により、習慣・趣味等を把握し、日々の関わりから言葉・表情で本人の意向を汲取りカンファレンス・スタッフ会議で検討している。	思いや意向は、家族からの情報や日常のケアサービスで把握するようにし、困難な時は根気よく話し合いをして、利用者本位を基本としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	変化が見られたり、連絡事項がある時は、その都度、家族へ報告し、情報収集をし、モニタリングを行った上で、サービス内容を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況を見ながら、出来る事を見出し、職員間で共有し、変化のある生活を送れる様に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには、家族が参加している。家族からの情報・職員の気付きからモニタリングを行い、チームケアに取り組んでいる。	介護計画のカンファレンスには家族にも参加して頂き、意見やアイデアを参考にしながら作成し、職員全員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付き・変化は個人記録、日報、連絡ノートを活用し、職員間で共有している。スタッフ会議、朝・夕の申し送り等で意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・買い物は、状況に応じて支援している。趣味に添ったコンサート・展示会・スポーツ観戦等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方による、絵手紙・音楽会を行っている。買い物・公園散歩・町内清掃参加等行っている。また、児童会館との交流も定期的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも、入居者状況により、個別往診がある。家族対応出来ない場合は、職員が対応している。月4回訪問看護。歯科往診・衛生士・マッサージ師の訪問もある。	月2回の往診が有りますが、利用者の状況に応じて、随時往診が可能です。かかりつけ医の受診も自由で、家族の付き添いが不可能な場合は職員が対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の変化を訪問看護師に伝える、ファイルを作成している。入居者に不調があった場合は、主治医の指示を頂ける体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医師より説明を頂いたことは、提携医師に伝え、時には、提携医師より入院先へ連絡を頂く事もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向かう方には、主治医・看護師・家族・職員でカンファレンスを開催した。	重度化や終末期に関する指針を作成し、家族へ説明して同意書を頂いています。職員は、内部研修等で指針の内容を理解し、共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変マニュアルがあり、職員がいつでも見れる場所に保管している。ホーム内研修にて勉強もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防災自主点検を行っている。火の元・戸締りの確認は確実に実施している。非難訓練には、町内会の参加がある。	避難訓練は年2～3回実施し、運営推進会議で訓練への協力を要請しています。避難訓練時には、周辺住民の方々も多数参加頂き、緊急時の物品も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーについては、ホーム内研修で勉強をしている。	プライバシー保護の研修を実施しており、利用者への日常的対応や個人記録の管理等は適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活を送れる様、家族の協力も頂き、支援している。自己決定出来やすい、声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・外出・入浴等出来る限り、入居者の希望に添う様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は毎日の髭剃り、女性は習慣で化粧をしている入居者もいる。化粧等は、状況に応じて、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に料理の配置・器・盛り付けを買えている。職員が情報共有し、話合いをかかさず。片付けは、無理のないよう、手伝って頂いている。	利用者は、簡単な調理、食事準備や後片付けを共に行い、食事と一緒に楽しんでいます。メニューも利用者の希望が反映されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に摂取できる、カロリー・水分量を把握している。水分量は、途中で集計し、目標分摂取頂ける様に支援している。（ゼリーで摂取等）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りは、自身で行って頂くが、状況により、職員が介助する事もある。また、衛生士のアドバイスを頂き、より良いケアをめざしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記載し、個別に排泄パターンをチェックしている。その方その方に合わせた見守り、声かけをしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録表で把握し、一人ひとりに応じた声かけや見守りなどの支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳・寒天ゼリー（個別）乳酸菌飲料等、個別対応を実施している。また、食物繊維を多く取れる様、工夫している。（味噌汁の具材等）		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の要望で午前・午後どちらも入浴可能にしている。また、清潔保持のため、突発的な対応も（朝1）等も入居者が快適に暮らして頂ける様、優先している。	入浴は毎日の午後に行い、毎回お湯を取り替えています。入浴回数は、3日毎を基本としていますが、利用者の状況に応じて、時間帯外や回数も柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、入居者本人に任せている。就寝の時間を把握し、ナイトケア・更衣排泄の声掛けを行っている。変化は職員で送り、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬見本・作用、服作用を明記したファイリングを用意している。変更があった時にも、連絡ノートで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に得意、不得意、趣味等を把握し、生活に取入れている。ユニットを超えての気分転換等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の要望があった時には、出来る限り対応している。買い物は、粗毎日行く為、必ず同行の声掛けをしている。買い物で地域の方と会い、挨拶を交わす事もある。	日常的に散歩や買い物に出かけ、冬期間も安全に配慮しながら外出しています。さらに、庭での外気浴や畑作業、車による遠出など、出来るだけ利用者が戸外に出る機会を持つように努力しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	玄関・廊下・居間には、行事写真（1ヵ月毎）・作品等を掲示している。また、廊下には休憩コーナーがあり、くつろげる空間を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より電話・手紙の要望があった時は、その都度対応している。手紙は、あて先を記載し、定期的に家族へ報告している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬以外は、居間よりベランダにすぐ出れる様、サンダルも用意している。日差しが強い時には、レースカーテンを引き、配慮している。季節に合わせた、花は、欠かさず居間の中の飾る様にしている。	共有スペースは、総じて明るく清潔さが保たれています。居間には写真や作品の飾り物があるため、温かみと親しみのある雰囲気になっており、畳の部屋で利用者が自由に休むなど、居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で気分を変え、仲良い2人が食事をしたり、廊下ベンチに座って入居者同士が話しをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居前に使用していた、馴染みの物を置いて頂く様、家族にお願いをしている。新しい物を置かれ、混乱する時など、家族と相談しながら、心地良い生活が送れる様支援している。	居室は十分な広さと備え付けタンスで整理し易くなっています。利用者は好みの暖簾を入口に掛け、室内には馴染みの物などを持ち込み、ゆったりと安心して暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札。トイレ・浴室・洗濯室にもそれぞれ表示している。居室内は、テーブルを使用し、表示の工夫をしている。		